

- ・西部地域では、医療機関が不足しており、特に障害者や子供の医療ニーズに対応できる施設が少ないことが問題。
- ・医師の数も不足しており、特に小児科医や脳神経外科医の不足が深刻。
- ・地域内の医療機関や福祉施設との連携が十分ではなく、患者が適切な医療や福祉サービスを受けられない状況がある。
- ・医療体制の現状に対して、市民の間には不安の声が上がっており、特に障害を持つ子供の親御さんたちは切実な悩みを抱えています。在宅に不安。
- ・済生会は医師不足や医療体制の課題を抱えている。
- ・整肢学園は障害を持つ子供たちのための施設ですが、整形外科医の不足や医療体制の課題。
- ・浜田医療センターは、患者数が多いことや医療スタッフの不足が課題。済生会は患者が少ない
- ・地域内の医療機関や福祉施設が連携し、患者に適切な医療・福祉サービスを提供できる体制を構築する必要性。
- ・市民の意見や要望を医療政策に反映させることの重要性
- ・議会が先導するのは良いが、医療従事者と市民の会が意見交換できる場も必要。
- ・今日の話し合いをどうやって市民に戻すか？が大事。
- ・行政だけではできないので、国に働きかけるとか、超党派で動いて欲しい。
- ・医療体制を考えながらのまちづくりは重要。
- ・全体として話を進めることも必要だが、年齢別などに分けして、それぞれ議員が専門の担当となり、理想や課題について研究し小さな声を拾う事もあっては良いのでは。
- ・議会は今まで市民と語る会などで地域医療についてやってきているが、今回のことについて具体的に何をするのが見えない。
- ・先の目標が見えない。
- ・自治会やコミュニティ、婦人会など様々な団体や地域の方からの意見を吸い上げてほしい
- ・済生会が何を困っているのかを知りたい
- ・全体で取り組むことは良いこと
- ・世代間で医療に対するニーズが違うので個別に意見を聞く場があっても良い
- ・急務であると思う
- ・子育て（周産期含む）の観点からも考えてほしい
- ・U・Iターン者のためにも安心できる医療が必要
- ・病院・行政に都合の悪い部分もあるかもしれないが、医療の現状を市民にしっかりと周知する必要がある。その上でなければ、住民の協力は得られない。
- ・医療にかかるには、交通の確保が条件となる。介護と医療は密接に関わっている。福祉・子育て支援・教育などを含め人口減少対策が十分でなければ、病院・診療所の経営も成り立たない。懇談で得た各団体や住民の声を踏まえて、市議会として行政へ総合的な対応を求め

るよう取り組んでもらいたい。

・2次医療圏として「急性期は浜田医療センターで」という括りにされるから、江津・済生会への対応が疎かなのではないか。県の姿勢も問われる。

・市議会の取り組みとして各団体と懇談するなら、実際にさまざまな事例に対応している民生委員に話を聴くのも有効と思う。

・過去に市議会が実施した議会報告会では、参加した住民から地域医療に対する要望があった。市長に届けているとは聞いているが、市議会として改めて確認し、こういった議論の下敷きにすべき。

・ひろく市民の声を聴くなら、市議会として住民アンケートを実施してはどうか。

・これまで市議会が動いていなかったのは問題だが、特別委員会が動き出したことは一歩前進。地域医療を励ますには、医療・行政・議会が立ち上がる必要があり、住民の声をもとに取り組んでほしい。

・党派・主義主張に拘らず、「市民の命を守る」というスタンスで臨んでほしい。

・ここを出発点として市民が協力すれば、遅くはないと思う。

・医療従事者と市民で対話できる場を設けてほしい。

・市民と対話するなら、それをもとに市議会としてしっかり市行政へ働きかけ、「どこをどうすれば課題を解決できるか」を踏まえて国・県にも対応を求めるべきであり、そういった動きを市民へ説明・報告も含めてフィードバックしなければならない。

・協力可能なことは協力していく

・どのようなことが出来るのかイメージできない

・説明のあった歓迎会などで医師が定着することには疑問を感じる

・趣旨には賛成

・皆さん、関心があると思う

・済生会は医者来ない、毎年赤字で助成金をつぎ込んでいるので在り方も含めて検討した方がよい（済生会にばかり支援していると感じている人もいる）

・邑智病院には「公立邑智病院を支援する会」があり、草刈りなどを共同作業されている（邑智病院は良いと聞く）

・アンケートを取ってみてはどうか

・後継ぎ問題（地域の開業医）もある

・積極的というほどではないが趣旨には賛同

・男性よりは女性の方が興味があるのでは（男性は出不精が多い）

・女性に来てもらうためには柔らかい雰囲気づくりが必要（シンポジウムのような硬い雰囲気は難しい）

・江津市内までは出にくい（桜江支所なら良い）

・病院の出口で調査をしてみてもどうか

・子育て世代は小児科がないので不安（あまり行きたいと思わない）

2025年1月～3月 住民団体「地域医療を守ること」について意見一覧

- ・診療科によっては毎日ないのは不安
- ・小児科がないと、予防接種のスケジュールが組みにくい(相談に乗ってもらえると嬉しい)
- ・趣旨には賛成、協力できることはしていきたい
- ・具体的に何をしたら良くなるのか分からない
- ・事例を調べてリストを作成し、その中から選択してはどうか
- ・何もない状態からでは難しいと考える
- ・協力はできるが、課題が大きすぎて、手に余るのではないか(絞り込んだ方が良いのでは)
- ・旗振り役が大事
- ・済生会には行きにくい雰囲気がある
- ・メリット(良い医療・接客・交通の便など)がないと協力いただけないのでは
- ・地域住民へ医療の現状を教えて欲しい
- ・ワイワイガヤガヤすることは大事
- ・趣旨には賛同
- ・予算のない中で、知恵を出し合う仕組みづくりをしていければ
- ・意見集約の場は必要と考える
- ・現実に即した組織にしていった方が良い
- ・西部地区全体で考えた方が良い
- ・かかりつけ医が欲しい、また充実させて欲しい
- ・病院の選択肢がない
- ・子どもに対する医療もだが、早期退職して7年在宅介護した意見としては、老人向けの医療も大事
- ・協力は可能、皆さん関心を持っていると思う
- ・診療科目が少なく、産婦人科・外科がないので、診療科目の充実を図って欲しい
- ・済生会で受診したいが浜田医療センターになる
- ・今は車に乗れるが、乗れなくなった時が心配(公共交通も一緒に検討して欲しい)
- ・先日、入院したが不満は全くなく、感謝しかない(昔より診療体制が細分化されて、至れり尽くせり)
- ・患者さん(高齢者の方)がわがままで、病院の対応が大変だと感じた(患者さんの教育も必要)
- ・食事の色合い良く、味付けも良く(薄いが素材を生かしている)、栄養的に管理されていた
- ・病院食ではなく、健康食とネーミングを変えては(病院食はまずいという先入観があるのでは)
- ・かかりつけ医の制度が変わって、病院で見てもらえる回数が減った。應儀医院の先生はよくやってもらっているが、いなくなったら心配。
- ・市民が一体になって取り組まないと進まない。

- ・地域の診療所である花田医院での患者の受け入れはパンク寸前。なんとかしてあげたい。
- ・協力したい。今回聞いた話を役員会で協議する。
- ・ほかの地域での取り組みを聴きたい。
- ・聞いた内容を理事会で協議する。その上で協議会としての対応を示して、議会・地域医療対策特別委員会と改めて話をする場を設けたい。
- ・江津市議会の地域医療特別委員会での(省略)見難い案件も承知しておりますし「江津市の地域医療を考える会」
- ・済生会江津総合病院の小児科医が不在になる頃からのメンバーの一人として多少は真剣に考えさせてもらった時期もありましたがあまりにの無力さに正直ウンザリしております。
- ・済生会江津総合病院の診察科の減、山崎、国沢病院の医院(クリニック)への縮小の現状を見ておりまして要望と聞かれましても「いつでも安心して受診できる環境を」と申し上げるしか無いのが現状だと思います。
- ・医師の確保！これは議会(議員)が取り組まなくてはいけない課題ではと考えております。
- ・医師不足の解消
- ・救急病院としての役割と医師不足の関係は
- ・救急は浜田医療センターにすることで、昼間の対応の充実を図る
- ・町内で呼びかけても、参加するのは役員中心になり、あとは役員が一本釣りしても10人位の参加だ。
- ・市議会が地域医療対策に取り組んでくれるのはありがたい。
- ・高齢者・次世代にとって「住み良いまち」にするため、医療の充実は必須。
- ・介護の現場は人材不足で、医療の充実で「住み良いまち」となり、人口減少から脱却しなければ、人材の確保は難しい。
- ・若い世代にとって、働く上での優先順位は「やりがい」から「やりやすい」に変わってきており、その環境整備として労働条件の改善だけでなく、子育て・教育などの支援制度の拡充が必要で、これは医療・介護の職場でも同様であり、施策を進めてほしい。また、医療では小児科・産科が必要。
- ・住民に協力を求めるのもアリかもしれないが、行政がしっかり動く必要がある。
- ・テーマを据えて市議会・行政と意見交換する場を設けるのには協力するが、最初は10～20人程度での実施が好ましい
- ・現状で住民に協力を求めても、「どうすればいいか」と「病院がしっかりやれ」となり難しいが、話を聞く素地はある。ただ、ある程度のまとまりのある話・具体性のある話でなければ、井戸端会議になる。
- ・3つの地域が集まる組織として、人集めは大変だが協力したい。
- ・コミュニティとして、人を集めて意見交換の場を設けても、いきなり「なにをするか」「なにができるか」の議論は難しい。まずはコミュニティの役員や関心・意識のある人を10～15人程度集めて、話をするのが適当だと思うし、協力もしたい。

- ・電子カルテは永久保存か？
- ・人口が少ない地域ほど医療体制が必要
- ・障がい者の医療体制は綱渡りの危機的状态
- ・総合内科が重要
- ・市の補助金で新しくなった医療機器がもったいない。
- ・救急車で済生会に行った後浜田医療センターに転送になった場合、その移動がタクシーか自家用車の選択になるのが困る。
- ・医師寮が空いているのがもったいない。
- ・病院のお世話にならないよう予防に力を入れたらよい。
- ・普段病院に係らないので、こんなことになっているなんて初めて知った。
- ・総合病院も必要だが、広域的な医療を進めていき、江津市においては、例えば、産婦人科に特化した病院のように特色を持った医療体制を考えてみては。
- ・過疎地域なのでコミュニティナースの取り組みを進めることも良いのでは。
- ・地域では100歳体操などやっている。
- ・地域医療についても大事だが、健康増進の考え方も取り入れてみては。
- ・医師が増えると良い。
- ・救急が不安
- ・検診補助が減っているように感じる（検診項目）
- ・医師が田舎に来ない（どこも同じだと思うが）
- ・看護師の離職が多いと思う自分の子育てなどもあり勤務体制などが課題なのでは
- ・公費もかなりはいつていると思うが医療が先細りになっていると感じる
- ・白寿園などの施設は順番待ちで自宅介護となり不安
- ・済生会の今後について方向性を示してほしい
- ・特徴を出して（例）介護の充実、在宅医療の拠点
- ・訪問医療で住民が安心できる
- ・開業医が何日か通ってくる
- ・メディカルネットワークの拡張）
- ・救急医療
- ・ドクターヘリの充実
- ・症状による搬送先の明確化
- ・介護予防（フレイル予防）
- ・100歳体操など現在もあるが維持してほしい
- ・子供の急病時など、どこに行ったらよいか。（安心していける場所）
- ・保健師も頑張っているが、ハード面や診療科など医療体制の充実が必要（産科・小児科の整備）
- ・救急ではどこに搬送されるか不安がある。仕組み・ルールを市民に判りやすく明示してお

くべき。

- ・かかりつけ医でやった検査を、紹介先の済生会でも二重に検査されることもあると聞く。
- ・デジタル化が有効活用されていないのではないか。
- ・とくにコロナ禍以降、済生会や一部の診療所で患者が少ないように感じる。経営が大丈夫なのか心配。
- ・圧迫骨折のような入院はできないが自宅療養を余儀なくされる症状の場合に、極一時的に利用できる訪問介護サービスがあれば安心できるし、医療への負担を減らせるのではないか。
- ・UIターンを希望する人がいるが、医療体制に不安があれば、江津へ帰る・来るという選択肢はなくなる。
- ・救急での搬送先を選べず、「必ず済生会へ」となっているが、患者がある程度選べるようにしてほしい。
- ・救急で済生会へ搬送されても、診断後の転院を自力でできるよう求められる。動けない状態で「自分でタクシーで行って」は医療機関としてどうなのか。
- ・市内で分娩ができないのは問題。小児科もなく少子化対策・子育て支援が成り立たない。
- ・かかりつけ医となる診療所がない地域もあり、通院のための経済的負担を軽減する施策が必要。
- ・市民からの病院への悪口は期待の裏返し。
- ・常駐の医師がいないため、通院の条件が限定される
- ・西部医療センターでは「常勤医がいるところで診てもらった方が…」と言われたが、個人ではどうしようもない。
- ・医療の負担を減らす上で、百歳体操が細かく実施されるようになったのは重要なことだと思う。また、保健師が来て指導・簡易検査・フレイル予防の説明をしてくれるのはありがたい。
- ・開業医の先生方も高齢化しており、後継者の確保に取り組んでもらいたい。
- ・済生会の医師住宅を有効利用する方策が求められる。税金を投入して立派な病院を建てて機材も揃っていると言うが、有効に使えるなければ市民は行かないし、行かなければ経営もダメになる。
- ・小児科や産婦人科がないことは問題
- ・救急車の行き先が江津市か浜田市か分からない
- ・救急車は済生会を經由して、浜田医療センターへ行くことがあるが、直行した方が良いという意見もある
- ・医者が悪いのか何が悪いのか分からないが
- ・看護師の対応が横柄
- ・子育てには教育と医療が必要
- ・浜田市旭町の診療所を利用する人も多い

2025年1月～3月 住民団体「地域医療を守ること」について意見一覧

- ・以前にコミセンで済生会の状況説明してもらったことがある
- ・應儀医院に行くことが多い
- ・邑智病院は綺麗で、先生が多く、診察が早い（予約なしで朝行って9時半には診察が終わった）、ロボットも稼働している
- ・過去に救急車が済生会で受け入れてもらえず残念
- ・整肢学園は専門性がある
- ・緊急の際に対応できない現状はどうかと思う
- ・スマートフォンなどを利用して、リモートでできる医療体制作りはできないか（選択肢がある方がよい）
- ・通院が難しい（バスの便数が少ない）
- ・應儀医院がなくなると困る
- ・交通の便が悪い（診察が1日がかかりになる）
- ・済生会の取り組みをアピール（広報）を（自助努力も大事）
- ・救急でタイムリーな医療が受けられなかったと聞いた
- ・医者・看護師・受付など組織全体で自助努力をして欲しい
- ・開業医には文句は言いづらい（今後も受診してもらわないといけないので）
- ・マネージャーは大分県からで子育て中、妊娠・出産、小児科の医療機関がなく、下の子どもは大分県で出産した。この仕事でなければ辞めなければならなかった
- ・医療に加えて、通院のための公共交通も検討して欲しい（通院・商店・金融）
- ・民生委員なども専門家へのつなぎ役として動き、効率性を上げて欲しい
- ・子育て支援の情報の情報発信を工夫して欲しい、また周知して欲しい
- ・情報発信にコミセンを利用して欲しい
- ・ワンストップで情報が取得できれば良い（事業者に委託して実施しては）
- ・市で横断的に様々なことを考えて欲しい（部署によって異なることがある）
- ・島根大学の先生が来られることは、先端医療が受けられるのではないかと
- ・浜田圏域でのネットワークがしっかりしていれば困ることはないのではないかと
- ・予約診察なので、院内に患者さんが少ないのは当たり前ではないかと
- ・済生会への不満の声は、以前より少なくなっているように感じるが、依然として苦言はある。
- ・医師にとって、江津市・済生会への評価・イメージが悪いと聞いている。
- ・松江の病院では手術でも4～5日で退院しており、回転が速い（経営を考えると内科より外科の方が良いのでは）
- ・かかりつけ医なのに診断書（狩猟免許の必要書類）の発行に2カ月かかると言われた（提出機関に間に合わなくなるので改善して欲しい）
- ・議員報酬をあげてあげんとやり手がおらん。
- ・風の国

2025年1月～3月 住民団体「地域医療を守ること」について意見一覧

- ・就労障がい者の所得を上げるように頑張っている。
- ・済生会の透析患者の送迎が必要。
- ・病気予防の取り組みが重要で、波積では花田医師に講座を実施してもらっている。
- ・次の世代の医師確保が必要。
- ・行政の施策として、医療に加え交通・学校の確保が重要。
- ・地域医療対策特別委員会はいままでなにをしていたのか。
- ・県東部と西部の偏在を解消に行政はどうかかわるのか
- ・地域の意見を聞くことは次につながる課題も見える
- ・議員だけでなく、市が地域に聞いて回ることが必要
- ・語る会（議会や市長）で、テーマを設定して議論を
- ・市の動きが見えない（医師不足解消など）
- ・利用減の分析はされているのか
- ・済生会だけでなく開業医との関係は
- ・済生会のスタッフは頑張っている。
- ・過去、済生会が充実していたころは、長が統率力を発揮していたように思う。
- ・江津市では、医療のハコモノは充実しており、ハコを活かす人材を確保してほしい。
- ・救急・24時間の受け入れは維持してほしい。
- ・地域医療は大事だが、地域的に救急は医療センターへ搬送してほしい。
- ・行政の医師・看護師確保の取り組みが見えない。やっているなら説明・周知をすべき。
- ・済生会は患者が減っているがどういう状況か。
- ・病院を疲弊させる救急をやめてしまえば。